

IV. 実現に向けた取り組み

1. 実現化に向けたアプローチ

(1) 市民ニーズを満たすテーマ・取り組みの具体化

ワークショップの参加者からは、まちなかで取り組んでみたいアイデアがたくさん出されました。これらの市民が求めることを具体的に形にしていくことがまちなかのぎわい創出に繋がると期待できます。

(2) 市民ひとりひとりが「活躍」できる場・仕組みづくり

本ビジョンの目指す将来像である「ひとりひとりが主役になれるまちなか みんなの活動がシンボルになるまち」を踏まえ、市民ひとりひとりが「活躍できる」場をどうやってつくり、思いを持つ市民同士をいかに繋げる仕組みをつくるかが実現化のポイントです。

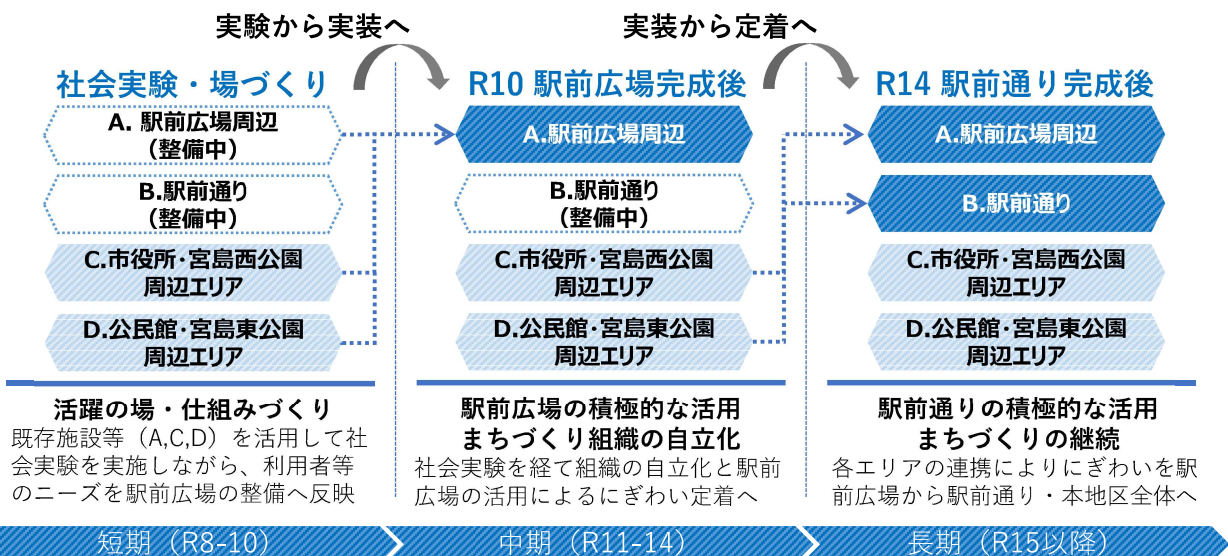
(第4回・第5回ワークショップにおける市民の活躍の場や繋がる仕組みを求めるニーズ(抜粋))

- ・まちを元気にしたいと思っている人を発見する、知るきっかけになるプロジェクトを開催。
- ・まちづくりに興味のある市民が継続して「繋がり」を持続できる仕組みとしてまちの学校をつくり、まちの部活として活動を作りたい。
- ・やりたいことがある人はたくさんいる！やってみたい！を実現できる環境やこんなことをやりたいけどどうしたらいい？を解決できる場をつくりたい。
- ・いろんな分野の人が集まって話をしたり、分野ごとに集まったり、定期的に相談したりする場所があると良い。
- ・サポーター登録制度により、興味や各人の状況によって気軽に関わることができる仕組み

(3) 駅前広場・駅前通りの整備を見据えた段階的アプローチ

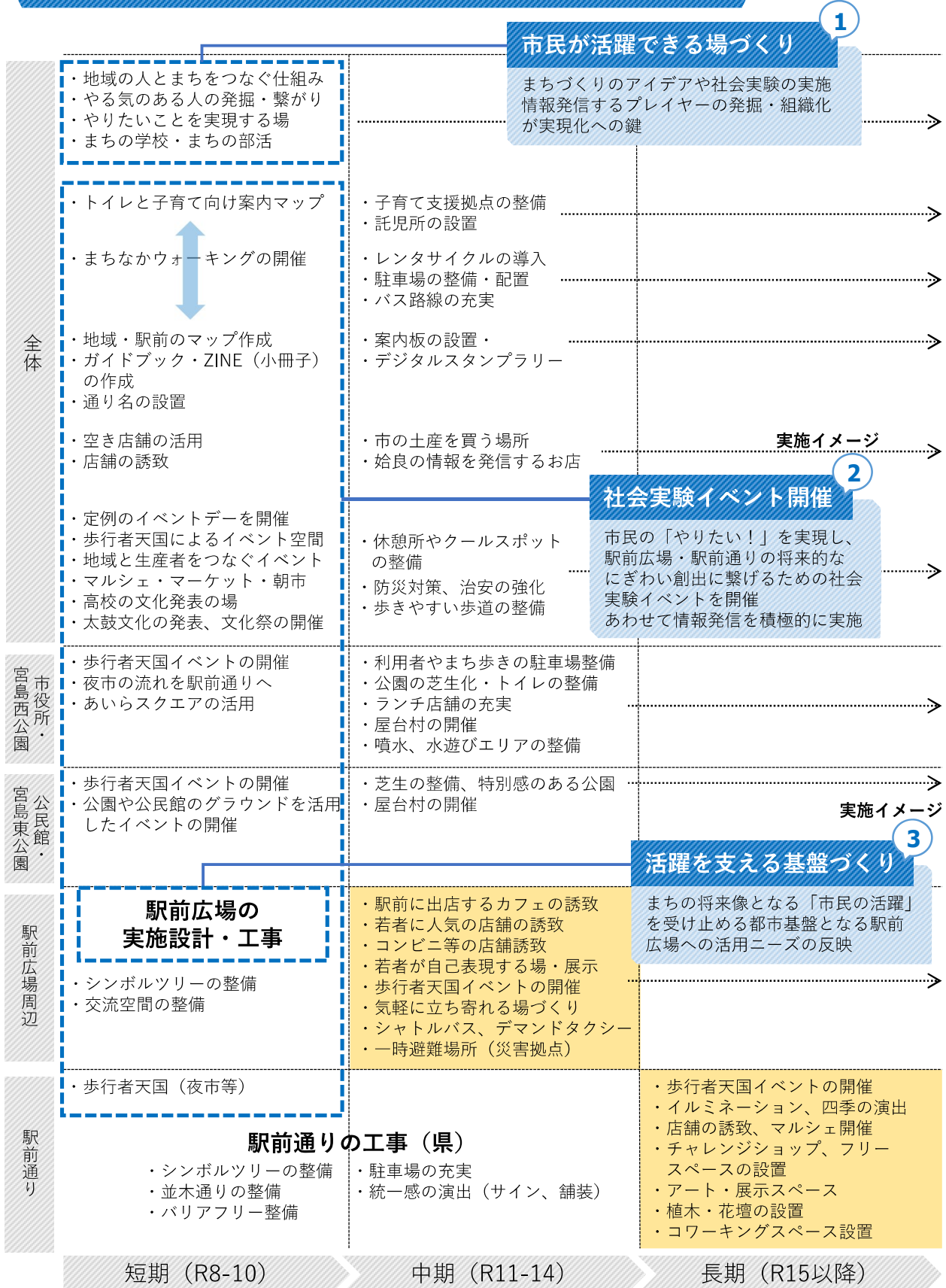
実現にあたっては、今後想定される駅前広場・駅前通りの整備のタイミングを見据えて段階的に取り組みます。

(段階的なアプローチのイメージ)



2. 実現化に向けた全体像と短期的な実現化方策メニューの提案

実施イメージ



短期（R8-10）

中期（R11-14）

長期（R15以降）

資料：第4回・第5回ワークショップで出たまちづくりアイデアを短期・中期・長期に分類整理

IV

2. 実現化に向けた全体像と短期的な実現化方策メニューの提案

3. 実現化方策メニューの提案

ー実施イメージ①ー

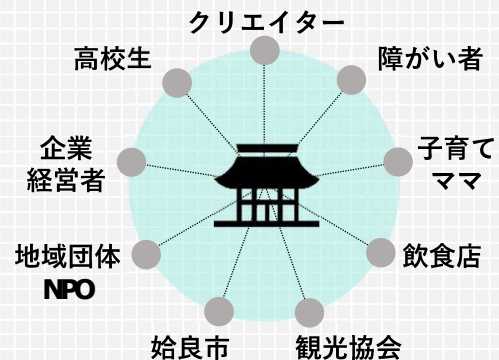
“やる気を見える化”市民が活躍できる場づくり

まちづくりの一丁目一番地は人づくり。まずは本地区のにぎわいづくりに関心・意欲のある市民や関係者が集まり、「やりたい！」を応援する緩やかなチーム＝まちづくりサークル（部活）の立ち上げを目指します。

（ワークショップ参加者へのアンケートにおける場づくりへのニーズ）

社会実験の話し合いをする場への参加意向は9割以上

- ・今後もワークショップを続けてほしい。
- ・誰でもやりたいことのできる始良市。
- ・事務局の設置を希望。できた際にはメンバーに入りたい。
- ・たくさんのプレイヤー登録
- ・常に話ができる「場」がほしい。
- ・まちのことをもっと知りたいので、このような機会が多いと嬉しい。



多様な人材が緩やかに目的で繋がる場づくり

市民の「やりたい！」を叶える
まちづくりサークル（部活）の設立

STEP1

リサーチ

まちづくりサークル設立のための準備

R7-8前半

具体的にまちづくりの協力者・実践者となり得るキーパーソンへのヒアリングや、ワークショップ参加者を対象とした組織づくりの特化した意向調査を実施。

STEP2

部活設立

まちなかを元気にするまちづくりサークルの立ち上げ

R8前半

ワークショップ参加者を中心にまちづくりサークル（部活）の立ち上げ支援。LINE等での連絡体制を合わせて構築。

STEP3

検討

“やりたい”を叶えるまちづくりアイデアの検討

R8前半

駅前広場や本地区内で「こんなことをやってみたい！」をまちづくりサークルのメンバーで検討。

STEP4

社会実験

まちづくりサークルを母体とした社会実験の実施

R8-10

具体的な事業ごとにまちづくりサークル内で参加者を募り、社会実験イベントの実施や情報発信ツールの制作（p.45）に着手。

立ち上げ・運営の伴走を踏まえ、駅前広場の完成を目標に組織の自立化を後押し

日常のきっかけを作る社会実験イベントの開催

第5回ワークショップにおいて短期的に取り組むべき社会実験のテーマとして最も多かったのが、マルシェ等のにぎわいを生み出すイベントでした。本地区に日常的なにぎわいを生み出す第一歩として、駅前広場の事業用地や、既存の公共空間を活用した**社会実験イベントを開催**します。

また、社会実験の実施とあわせて、地域で活躍するクリエイター等の人材を仲間に巻き込み、**地元目線による魅力的な情報発信**を行い、交流と発信によるにぎわいの創出に取り組みます。

(ワークショップ参加者の関心が高い社会実験のテーマ)

様々な場所を活用したイベントに対するニーズが多い

- ・マルシェ、バザー、マーケット (20名)
- ・駅前広場の空きスペースを活用した催し (17名)
- ・公園・緑地を活用した催し (16名)
- ・歩道空間を活用した催し (休憩施設等) (13名)
- ・市民交流を中心とした催し (12名)
- ・子どもを対象としたイベント (11名)
- ・デジタルサイン等の設置 (7名)
- ・シェアモビリティの実験 (7名)

**まちづくりサークルを母体に社会実験イベントを企画開催！
社会実験の周知とあわせて地元目線による魅力的な情報を発信**

資料：ワークショップ参加者へのアンケート結果 (42名へ配布し、28名回答)

STEP1

部活設立

まちづくりサークル内で活動の方向性を検討

R8前半

まちづくりサークルメンバーの中で、社会実験の実施や情報ツールの制作、まち歩き、観光PR等に関心が高いメンバーをそれぞれ募集し、方向性を検討。

STEP2

企画

社会実験イベントや情報発信の企画

R8-10

チーム内で定期的な会議を重ね、イベントの趣旨やテーマ、開催場所、時期について協議。できるだけ多くの人を巻き込める、繋がりを意識したイベントを検討。

STEP3

広報

社会実験イベントや本地区の魅力を広く周知

R8-10

社会実験のイベントとあわせて本地区の魅力を広く周知するためにチラシやSNS等の情報発信ツールを制作。地元目線の情報を目指し、可能な限り地元のクリエイターへ協力を依頼。

STEP4

実施・検証

社会実験イベントの開催、効果・課題の検証

R8-10

社会実験イベントを開催。今後の駅前広場・駅前通りへの波及や人の繋がり等を視野に入れて来場者へのアンケート調査を実施し、効果や課題を検証。

**数年の社会実験を踏まえ、イベントの定着化、駅前広場・駅前通りへの反映を目指します
また、令和11年度以降は駅前広場を情報発信拠点として活用を目指します**

“市民の活躍を後押し”する都市基盤づくり

駅前広場は駅利用者に留まらず、市民の交流・集客を求める声が多いことから、組織づくりや社会実験結果、関係者のヒアリング・協働を通じて駅前広場の設計に反映し、市民の活躍を支える基盤をつくります。

(ワークショップで挙げられた駅前広場に求められる機能)

交通機能に留まらず、地域の交流・集客拠点としてのニーズが多い

- 〈待合機能〉待合スペース、高校生の勉強スペース、屋内休憩スペース
- 〈サービス機能〉観光案内所（観光協会）、観光情報、土産販売、コインロッカー、授乳室・トイレ等
- 〈休憩・憩い機能〉シンボルツリー、木陰、ベンチ、花壇等
- 〈交流・イベント機能〉イベント広場、室内イベントスペース、キッチンカー・露店、チャレンジショップ、屋上の展望広場等
- 〈駐輪機能〉駐輪場、レンタサイクル、電動アシスト自転車等
- 〈防災機能〉災害時の帰宅困難者の一時避難場所、照明設備等

ベンチ×自治会

ベンチのデザインをみんなで考えて、地域でDIY



花壇・植栽×自治会

地域の景観をみんなで育む一人一花運動



キッチンカー×飲食

日常の飲食ニーズを満たすキッチンカーの出店



イベント×サークル

日常的な交流・にぎわいを作る定期的なイベント



学習スペース×高校生

通学する市内高校生の快適な居場所づくり



チャレンジショップ×若者

若者のやる気・挑戦を応援する環境づくり



まちづくりサークルや社会実験イベントの実施、関係者等へのヒアリングを通じて駅前広場に導入する機能・活用方法をより具体化し、駅前広場の設計に反映

4. 実現化方策の全体フロー

短期的には、「3. 実現化方策メニューの提案」の3つのメニューに取り組みます。令和10年度の駅前広場完成を短期の目標に設定し、各実現化方策メニューのベースとなる「市民が活躍できる場づくり」に最優先に取り組みます。

駅前広場の完成後は、駅前広場の活用やまちなかへの波及を視野に駅前通りの整備を進め、長期的には駅前通りの整備・活用による回遊軸の構築や本地区全体のにぎわい創出を目指します。

社会実験を通じて非日常から日常へ、駅前広場・駅前通りの整備・活用と情報発信により、駅前から本地区全体へ、にぎわいを徐々に広げていきます。

